

# 2020年8月度 中部品質工学研究会 議事録

1. 開催日時  
2020年8月1日(土) 10:00~17:00

2. 開催場所  
アイテックインターナショナル(オンサイト)  
Teamsを用いてのリモート(オンライン)

3. 会員参加者<敬称略>出：出席、欠：欠席、書：書記、休：休会  
S：オンサイト出席・L：オンライン出席・欠：欠席・書：書記担当

大見	L	牧野	L	横尾	議事	山口(直)	L	杉浦	L	三浦	休	城越	L	中山	S
合田	L	佐藤	L	伊藤	S	舟山	S	出島	L	福田	L	李	休	河合	休
奥村	L	水田	L	小峰	L	小西	L	山中	L	庄内	L	池田	L	山口(展)	L

特別ゲスト：田口 伸さん

4. 研究会内容

## 1) 田口伸先生とフリートーク

・世界のCOVID-19の状況について  
発生状況を見ながら皆で各地区発生状況の違いについて考察、協議。  
次回、品質工学を活用してこの問題を検討する方法について協議する。

## 2) 輪講：ロバスト設計のための機能性評価 第8章 (担当：横尾、サポート：牧野)

輪講の内容について、以下のような意見が出た。  
・一発で良くしようではなく、失敗しても、成功しても結果を技術的に考察することが重要。  
・加法性の有無についての判断：要因効果図を見て、山形、谷形が無ければ良い。

## 3) 品質工学との関わりについて：杉浦

品質工学との出会いとその後の当研究会参加など関連する活動を紹介した。  
技術開発者の立場で、品質工学手法を使用することの利点や有用性などに関し、自身の体験から私見を述べた。

## 4) 極細線の溶接 (安定した溶接条件の検討)：小峰

SN比の要因効果図で最大のものを使用しない理由として、試験開始時に設定できていなかった品質項目があり選定できていない。初期の設定のミス  
量産での結果がないのは、生産計画の変更により確認ができていない。  
再現試験では一定の効果が見られるため評価結果としては問題ないと判断する。

## 5) 逆直交表：牧野

MT法に使用されている項目診断の方法は、要因効果図、貢献度法がある。  
項目診断を実施するにあたり、直交表を使用する。現状では、正直交表を1回使用する方法である。この方法では、交絡が発生するので、いろいろな方法が提案されている。今回、逆直交表を使用する方法を紹介した。  
従来の正直交表を使用する方法と比較して、検出感度が上がった。

## 6) 社内品質工学の教育について：池田

品質工学（パラメータ設計）入門レベルの研修に関する懸念点を議論。機能の説明の仕方、直交表の有用性を示すための他の実験手法との比較方法、ノイズの一覧表、など具体的な教育内容についてメンバー間で意見交換できた。

## 7) 事務局連絡

1. WEB開催の問題点抽出
  - ・開催時間について。
  - ・ネット環境の問題はなし。
2. 会計報告（19年度）
  - ・残：502,000円
3. 今後の進め方（案）
  - ・WEB開催での講演
    - QFDについて（9月開催を検討）
  - ・外部セミナーの補助（←運用方法の再検討が必要）
  - ・来月の議題
    - 候補：山中さん、杉浦さん
    - 輪講
    - 品質工学との関り(城越さん)
    - その他(別途検討)
4. その他
  - ・WEBのみでの会員登録について検討
  - ・20年度の計画策定
  - ・細川さん：CS-T法の書籍購入希望を別途、連絡する
  - ・ポケットWi-Fiについては、継続契約する。